

# エディトリアル

公益社団法人地域医療振興協会 ヘルスプロモーション研究センター長 岩室紳也

## 広い視点で捉えたい若者たちの健康課題

地域で暮らす一人ひとりの健康を守る役割は誰にあるのかと聞かれば、プライマリ・ケア関係者は「私たちです」と胸を張って言うのではないだろうか。そのプライマリ・ケア関係者の一員として、今さらだがWHO憲章の前文(1948年)に記載されている健康の定義を再確認したい。

Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity. 健康とは、身体的、精神的ならびに社会的に完全に良好な状態であり、単に疾病がないとか、虚弱ではないということではない。

今の時代を生きている若者たちが直面している健康課題に、自殺、望まない妊娠、デートDV、インターネットがもたらすいじめ、性犯罪、脅迫などのトラブル、ニートやひきこもり、さらには働きたいけど働けないなども含まれる。しかし、これらの問題を健康面での課題と捉え、プライマリ・ケア関係者が積極的に解決に向けた役割を果たしているかといえば必ずしもそうではない。中には自分たちが関わるべき課題と捉えていない場合も考えられる。

## 専門家だけでは解決できない

確かにプライマリ・ケア関係者が医療機関内で一番出会わない年代が思春期から20代の若者たちかもしれない。プライマリ・ケア医の外来に患者をつなぐ保健事業は成人を対象とした生活習慣病対策であったり、介護予防を含めた高齢者の健康づくりであったり、母子保健事業となっているため、そもそも若者たちとプライマリ・ケア医が出会う場面が少ない。学校現場で健診をしてもほとんどが異常なしであり、そもそも学校に来られない不登校の若者たちとの接点はなく、彼らが抱えている課題の深刻さに触れることも少ない。

一方で、若者たちが抱えているこれらの課題に取り組んでいる専門家たちは日々奮闘し、課題を抱えた一人ひとりに真摯に対応しているが、残念ながらこれらの問題を根本的に解決する方向には向かっていない。さらに、世間ではこれらの課題を抱えた人たちをどこか他人意識で捉え、解決は専門家に頑張ってもらおうしかないという思いが強く、地域全体で取り組む必要性が認識されていない。

## 地域のネットワークで健康課題の解決を

医療はそもそも患者の訴えを受け、その訴えの原因となる疾患を明らかにし、患者の苦痛を和らげる方向で治療方法を積み上げてきた。健康課題を未然防止する役割を担う保健分野もハイリスク者をスクリーニングし、疾病につながる危険因子を排除するための健康教育プログラムの開発を行ってきた。しかし、ハイリスク者へのアプローチだけ

では必ずしも疾病予防につながらないことから、1986年にWHOがヘルスプロモーションの概念を提唱し、環境整備を含め、地域の中でさまざまな問題を解決する方向が模索されている。塩分やカロリーの過剰摂取を本人が自覚し自ら解決するのを待つだけでなく、地域の飲食店で塩分やカロリー表示を行い、住民がより取り組みやすくなる環境整備の必要性が徐々に理解されているところである。

### プライマリ・ケア関係者に求められるリーダーシップ

若者たちが抱えている自殺、性の諸問題、インターネットのトラブル、働けないといったことを解決する特效薬はない。これらの健康課題を解決するためには、本人や家族の努力が必要であることは言うまでもないが、地域のさまざまな関係機関の協力を得たネットワークの中で課題を解決することが求められている。本誌の読者である地域医療を、プライマリ・ケアを担う医療関係者はこれまでも地域の健康づくりについてはリーダー的に関わる一方で、表出された課題だけに対処しているだけでは根本的な解決にはならないことをこれまで多分野で経験してきたと思われる。プライマリ・ケア関係者が、若者たちの健康課題を地域で取り組むべき健康課題と捉え、これらの健康課題の解決に向けリーダーシップを発揮することを期待したい。

本特集では、今、思春期の若者を取り巻く健康問題の背景にどのような課題があるのか。若者たちと向き合い、丁寧に対処しているそれぞれの専門家に掘り下げてもらうとともに、地域の、思春期の若者の健康づくりを担うために医療関係者が押さえておきたい視点を紹介していただいた。この特集が地域医療を担う医療関係者が、思春期の若者たちの健康を阻害する、社会に蔓延するさまざまな課題を関係者との協働で解決していく一助となれば幸いである。